

日本門脈圧亢進症学会賛助会員 御参加のお願い

一般社団法人日本門脈圧亢進症学会

理事長 小原 勝敏



拝啓 時下ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本学会は、昭和43年の門脈外科研究会を端緒に、昭和53年に門脈圧亢進症研究会と名称変更し、昭和61年に発足した食道静脈瘤硬化療法研究会と平成6年に発展的に統合し、日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会（初代理事長：出月康夫東京大学教授）として新たに発足し、日本門脈圧亢進症学会（2代目理事長：二川俊二順天堂大学教授）と名称を変更し、平成26年に一般社団法人に移行し現在に至っております。

本学会の特徴は、門脈の成り立ちと同様に、参加する会員構成の多寡にあります。肝硬変が専門の肝臓内科、内視鏡が専門の消化器内科・内視鏡外科、手術が専門の肝臓外科・消化管外科、放射線科医、病理医が一同に会する稀有な学会であり、学問の出発点異なる幅広い分野の研究者が、門脈をテーマに様々な方向から基礎的研究と実際の臨床研究をもとに議論する場となっております。

毎年、学術集会を9月に開催するとともに、定期的に学会誌の発行もなされ、会員数も内科、外科、放射線科などを中心に1200名を越え、今後さらに増加・発展するものと思われま

基礎に種々程度の肝機能障害や、広範な血行動態異常を有する本症においては、これらの病因・病態の更なる検討に加え、胃静脈瘤や門脈圧亢進症性胃症、静脈瘤合併肝癌の治療など、今後本学会において解決すべき問題は山積しております。しかしながら昨今の経済事情は本学会の運営を極めて厳しいものにしております。もとより会の運営にあたっては、できうる限りこれを効率的に簡素に行うことを旨とし、今後ともに努力を続けていく所存ではございますが、現状では依然として、諸団体および企業の深いご理解と浄財に依存しなければならないのが実状であります。是非とも本学会の主旨をご理解戴き、本学会の更なる発展のために賛助会員（会費：年間5万円）にご参加して戴きたく、伏してご協力の程お願い申し上げる次第であります。未だに景気が低迷し、また種々の制約が厳しさを増す今日、重ね重ねのお願いで恐縮ですが、私共のおかれている現状をご賢察のうえ、なにとぞ本学会の賛助会員として今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら貴社の一層のご繁栄とご発展をお祈り申し上げます。

敬具